

日越農業協力対話におけるJICAの取組

ベトナム・ラムドン省における 農林水産業・食関連産業集積化に かかる調査報告



独立行政法人 国際協力機構
東南アジア・大洋州部
東南アジア第三課



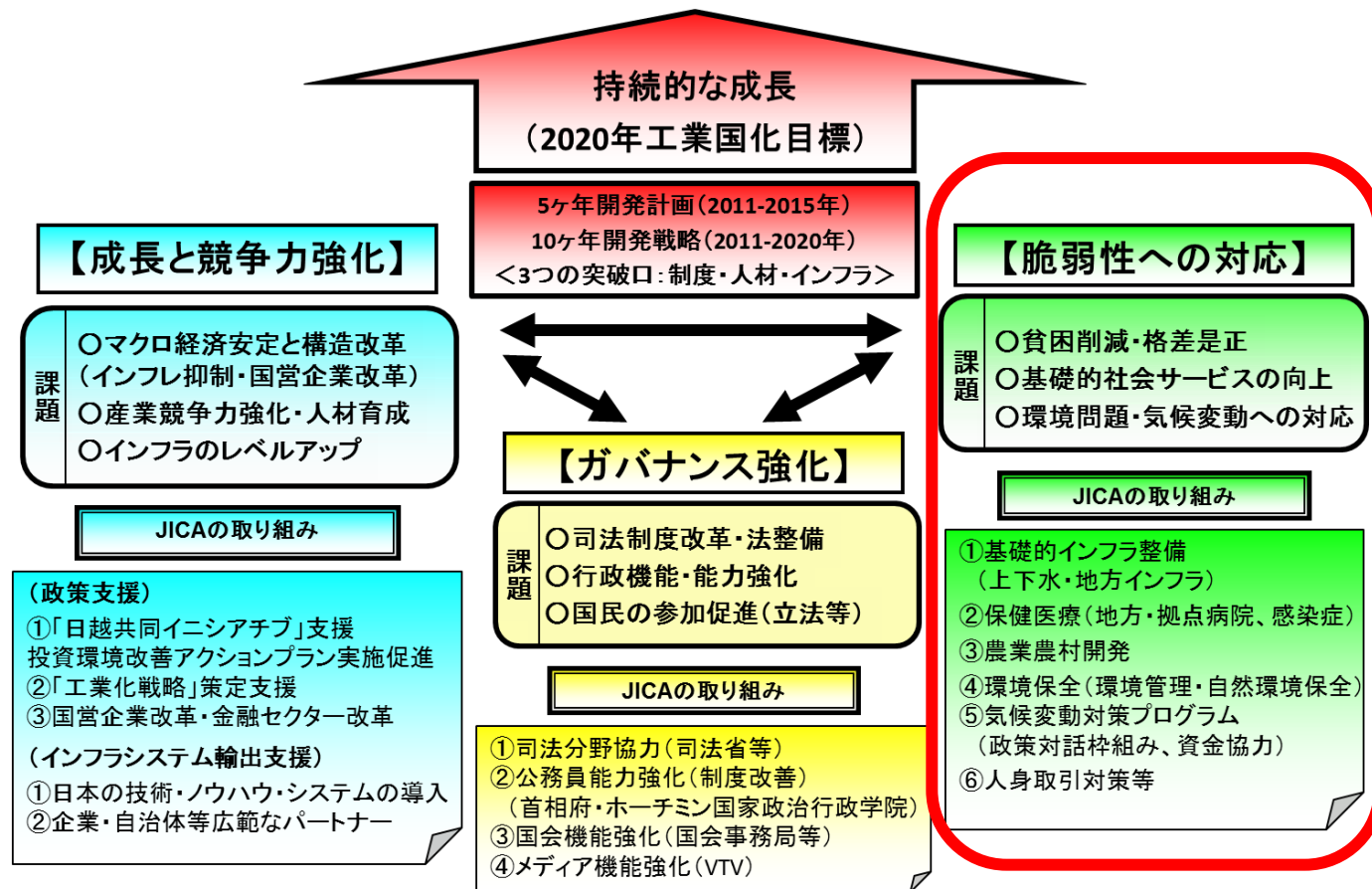
株式会社
ドリームインキュベータ

2015年 6 月 22日

1. 日越農業協力対話におけるJICAの取組

2. ラムドン省における調査報告

1. JICAの農業支援



2. 農業支援に関する最近の変化

1. ベトナム政府の関心の高まり

- ASEAN統合やTPP加盟
→ 農業を高付加価値で国際競争力のある主力産業の1つに発展させる意向。
- 「ベトナム工業化戦略」(2013年7月首相承認): 2020年までに特に強化する6つの産業
→ 電子, 造船, 環境・省エネ, 自動車・自動車部品、**農業機械**、**農水産品加工**
- ベトナム側要人の来日 → 農業支援に関し、非常に強い要請。

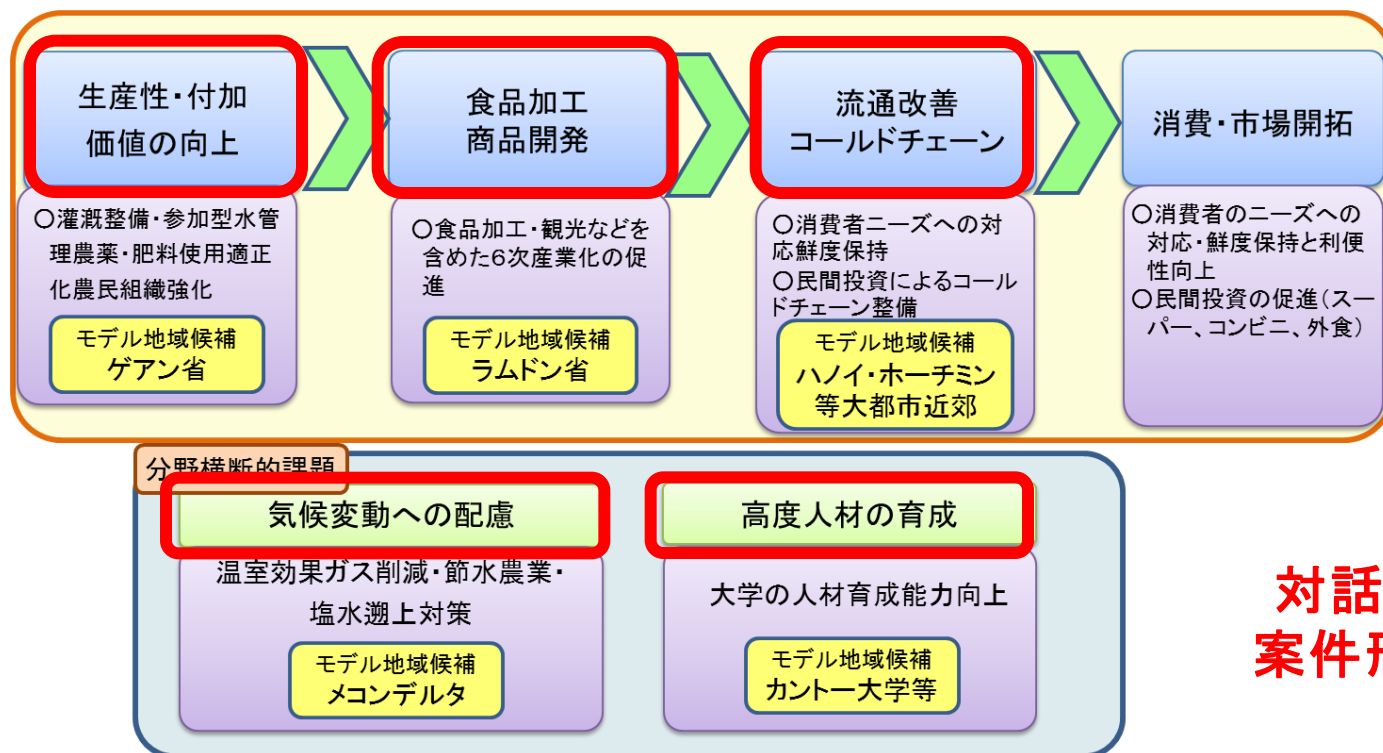
2. 国内外の民間企業等の関心の高まり

- 本邦企業: 輸入元としてのベトナムへの関心、輸入元の多元化、食の安全性に関する不安、「セカンド・チャイナ」としての期待。
- ベトナム国内の中流階級の増加: 安全な食に係るマーケットの成長
- 地方自治体: ベトナムとの農業協力への関心の高まり

2. 農業支援に関する最近の変化

3. ベトナム農業発展に向けた日越農業協力対話

- 2014年6月に日越両国農水大臣間でハイレベル会合を実施。
- ベトナム農林水産業の包括的発展のため、民間投資の連携によるフードバリューチェーン構築のための交流・協力の推進を図る。
- ベトナムの地方における実態を踏まえた協力を推進する観点から、民間投資と連携した日本の協力を効果的に進めるために適切なモデル地域を選定する。



JICA
**対話枠組みに沿った
案件形成・実施の促進**

3. 対話枠組みに沿ったJICAの取り組み

生産性・付加価値の向上（ゲアン省）

<背景>

- ゲアン省：農業は主要産業だが、農業インフラや流通網が未整備
→ 生産性が低い、市場での価値が低い

<JICAの取り組み>

- ◆ 円借款による灌漑施設の整備を支援（2013年～）
- ◆ これまでのJICAの技術協力の成果の集中展開
- ◆ 農業総合開発計画の策定支援（2015年～）
 - ゲアン省におけるフードバリューチェーンの構築に向けた開発計画
 - ✓ 農産物の生産、ポストハーベスト、流通、販売における透明性と安全性の向上
 - ✓ 市場ニーズに基づいた農産物の栽培

3. 対話枠組みに沿ったJICAの取り組み

食品加工・商品開発(ラムドン省)

<背景>

- 冷涼な気候に恵まれた高原野菜の生産地
- 多くの民間企業が生産・加工等で投資、連携を検討するも
 - ✓ 情報提供・民間進出支援体制の欠如
 - ✓ 生産拡大に必要な開発可能な土地確保が困難
 - ✓ 連携可能なパートナー不足(小規模農家が点在、基準遵守有無等)

<JICAの取り組み>

ラムドン省農林水産業及び関連産業集積化に係る情報収集・確認調査 (2014/09-2015/10)

- 民間投資の阻害要因の分析と解決策の提案を基に、ラムドン省の次期5カ年の経済社会発展計画(2016-2020)策定を支援し、同省が民間セクターの活動を促進する枠組作りに協力。
- 今後、同計画実施に向けた円借款や技術協力を実施予定。
- 民間提案型事業(案件化調査、技術の普及促進、等)も推進

3. 対話枠組みに沿ったJICAの取り組み

高度人材の育成(全国)

<背景>

- 環境の変化や市場ニーズへの対応 → 技術開発や普及を担う人材不足
- 知識重視型 → 地域の開発ニーズを踏まえた研究テーマの設定と地元へのフィードバックが困難

<JICAの取り組み>

ハノイ農業大学への支援

- 高収量イネの品種改良と普及に関するプロジェクトを実施（本邦大学との共同研究）

カントー大学への支援

- これまでに、無償資金協力、技術協力を数次に亘り実施。
- 2015年度中：同大学の研究・教育機能の強化に向けて、研究施設・設備の整備を中心とした円借款の供与を予定。
- 共同研究、本邦留学、カリキュラム改訂等を含む技術協力を併せて実施予定。

3. 対話枠組みに沿ったJICAの取り組み

気候変動への配慮(メコンデルタ)

<背景>

- 気候変動の影響を受けやすい脆弱な地域
- 潮位変化による塩水遡上等による農業への影響

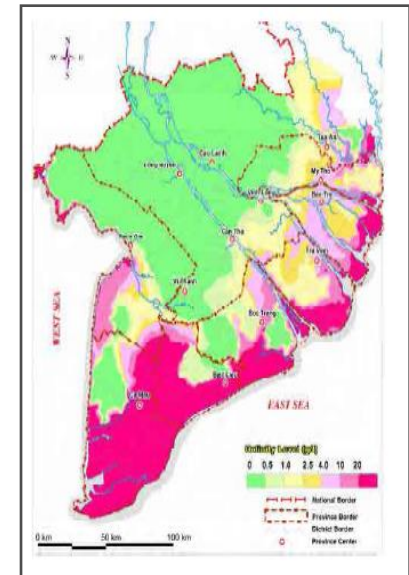
<JICAの取り組み>

2012年～2013年：

- 開発調査にて気候変動に即した農業開発計画の策定を支援

2015年～：

- ベンチェ省にて、塩水遡上防止用の水門建設に関する調査を実施予定。→ 円借款案件化を目指す。
- 円借款と併せて、作付パターンの変更や効果的な水管理に関する技術協力の実施も検討。
- カントー大学（後述）との連携も検討。





ありがとうございました。

お問い合わせ：
JICA東南アジア・大洋州部 東南アジア第三課
作道俊介: sakudo.shunsuke@jica.go.jp

1. 日越農業協力対話におけるJICAの取組

2. ラムドン省における調査報告

DI = 「BUSINESS PRODUCING COMPANY」

会社概要



ドリームインキュベータ

「Business Producing Company」

- 戦略コンサルティング
- 投資・インキュベーション
- 事業経営

概要

- 設立：2000年6月
- 総資産：131億円
- 従業員数：348
- 東証一部上場

海外拠点

- ホーチミン（2007年7月～）
- 上海（2010年12月～）
- シンガポール（2011年8月）



ドリームインキュベータベトナム

DI 初&最大の海外拠点

- 設立：2007年7月
- 従業員数：25名

事業領域

- 1) 投資/インキュベーション
 - DIAIF（①50億円・②100億円）
- 2) 戦略コンサルティング
 - 対ベトナム政府+日本トップ企業
- 3) M&A アドバイザリー
- 4) 事業経営（FBマーケティング）

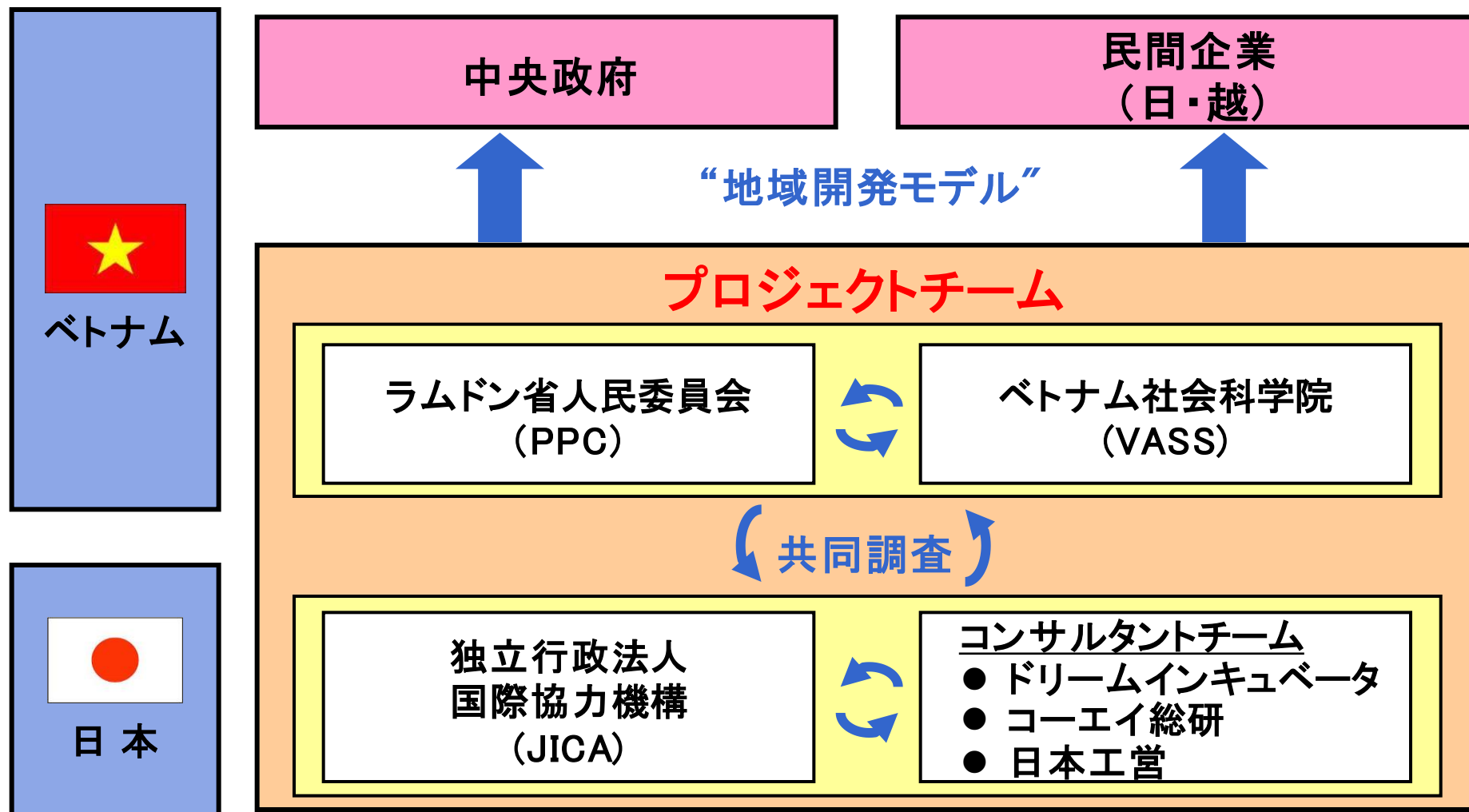
強み

- A) 現地企業500社以上とのリレーション
- B) 投資先をハズオンで経営支援
- C) 日本企業・政府との連携をドライブ

日越×官民連携 ⇒ 次代のビジネス・産業をプロデュース

現在、ラムドン省の農業発展戦略を構築中

現行プロジェクトの概要



「日越農業協力対話」の目玉プロジェクト

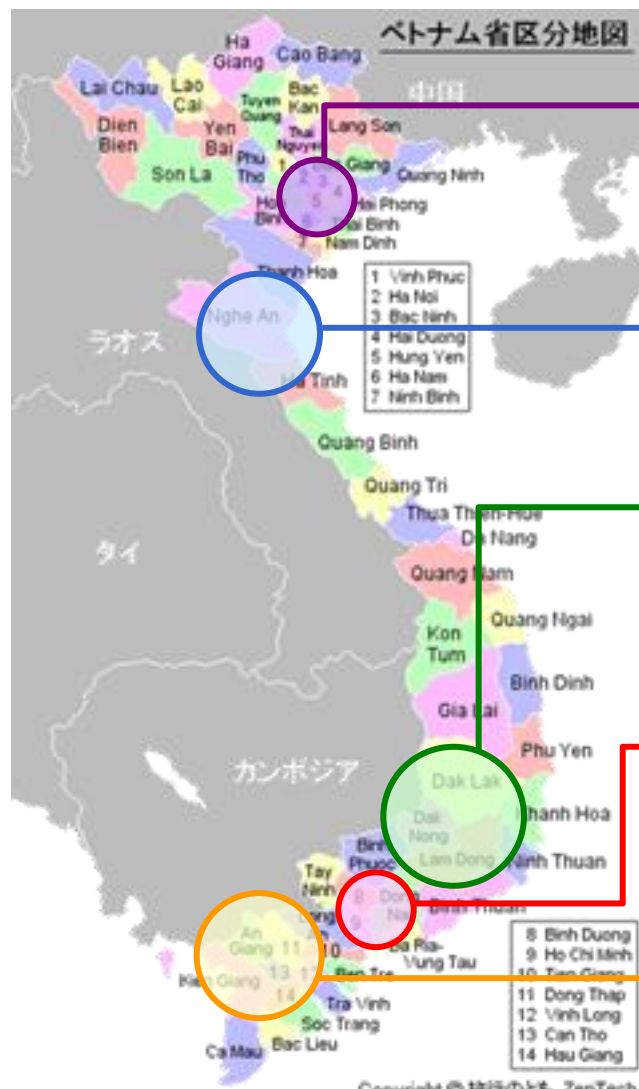
ベトナムにおけるラムドン省の位置づけ

ベトナム全体マップ

エリア

主要省

農業タイプ



- Hanoi
- Thai Binh
- Nam Dinh
- Hai Duong

- 都市近郊型農業
 - 野菜メイン
(葉物・キュウリ・トマト)

- Nghe An
- Ha Tinh

- 四季を生かした農業
 - 野菜・果物メイン

- Lam Dong
- Dak Lak
- Dak Nong

- 高付加価値農業
 - 冷涼な気候を生かした
高原作物メイン

- Ho Chi Minh
- Dong Nai
- Binh Duong

- 都市近郊型農業
 - 野菜メイン (葉物)

- Dong Thap
- Tien Giang
- An Giang
- Kien Giang

- 南国農業
 - 豊富な水と日照量
 - コメ・果物・花きメイン

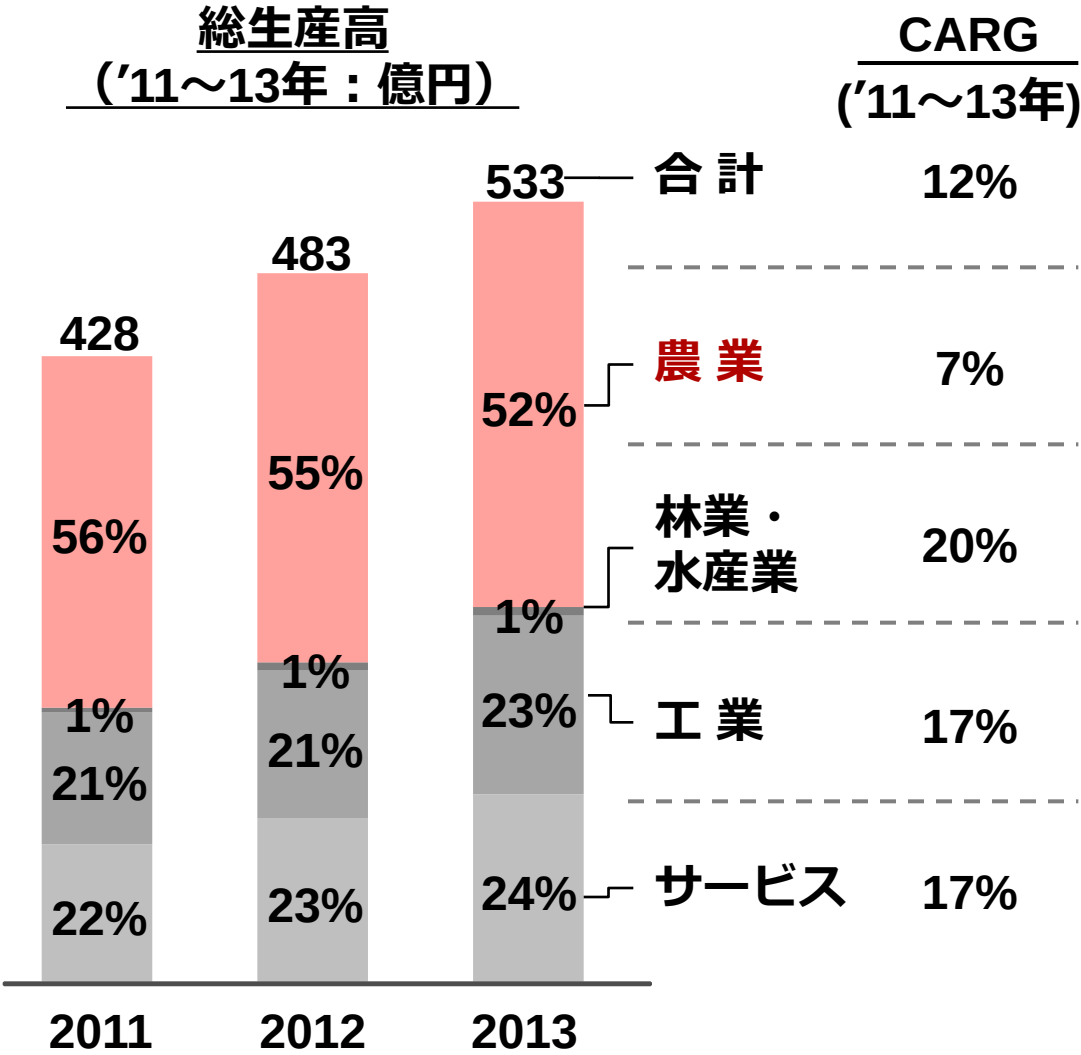
ラムドン省の概要： 中部高原屈指の農業省

概 要



- 人口 ● 125万人
- GDP ● 1,699米ドル/人
- 面積 ● 総面積： 977,219 ha
● 農地： 316,168 ha

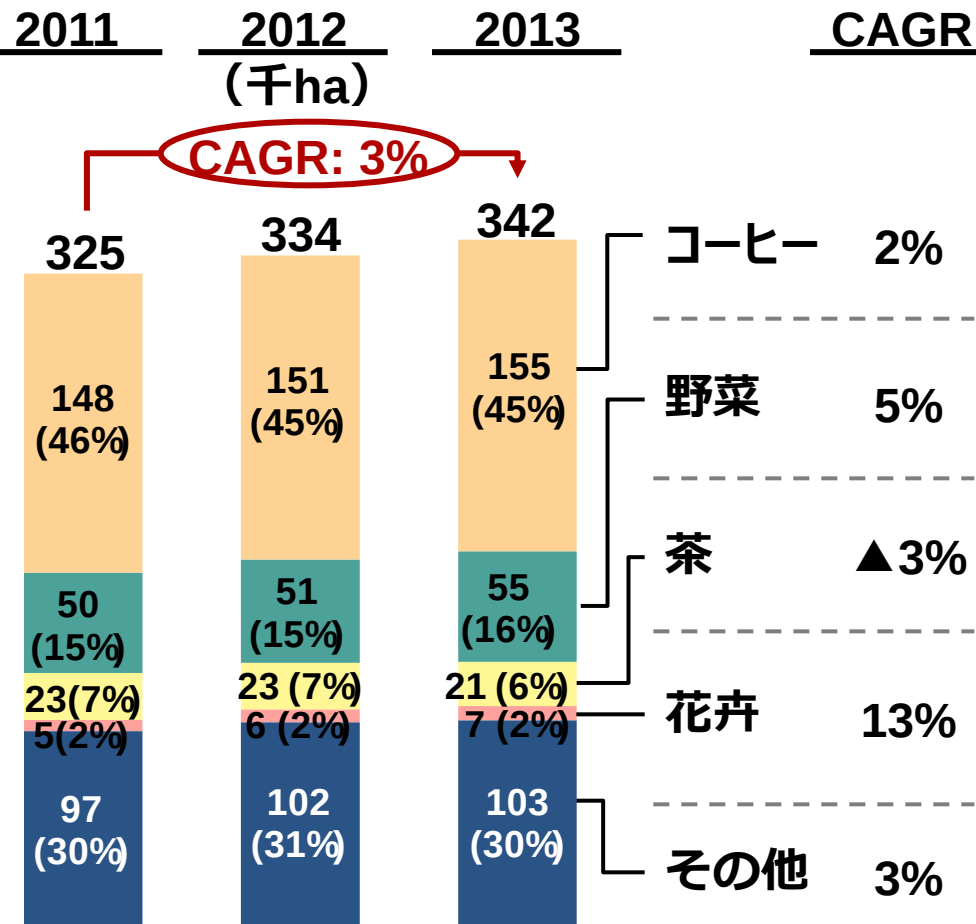
農業が主要産業



注： 1円=180ドンにて換算
出所： ラムドン省公式HP

主要農産品：大きく5つ

恵まれた営農環境 ⇒ 堅実成長



主要5品目 ⇒ 国内有数の地位

コーヒー

- ロブスタ種：国内2位
- アラビカ種：国内1位

野菜

- 唯一無二の高原野菜生産ハブ
- 国内随一のブランド力

茶

- 国内最大規模
- ウーロン茶は国内唯一の産地

花卉

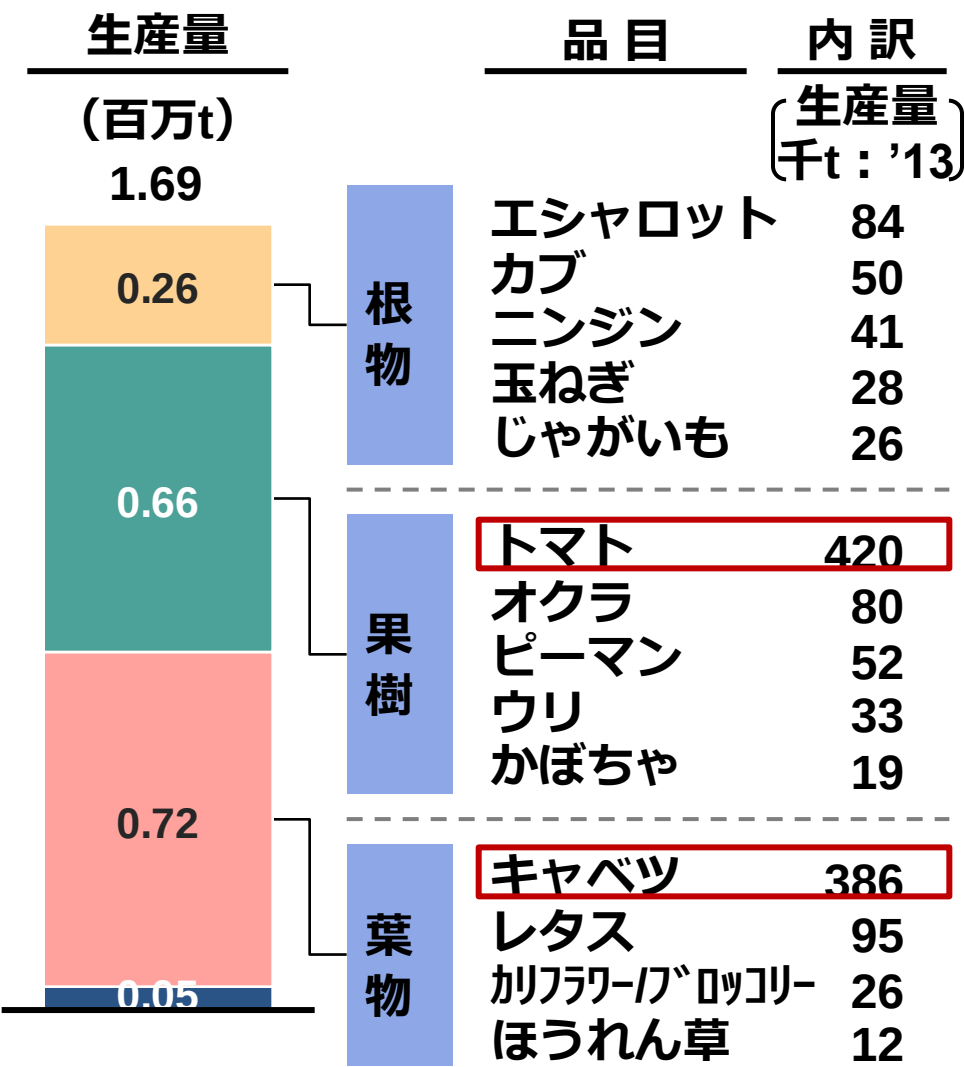
- 国内ダントツの花弁生産ハブ
- 国内屈指の知名度

乳製品

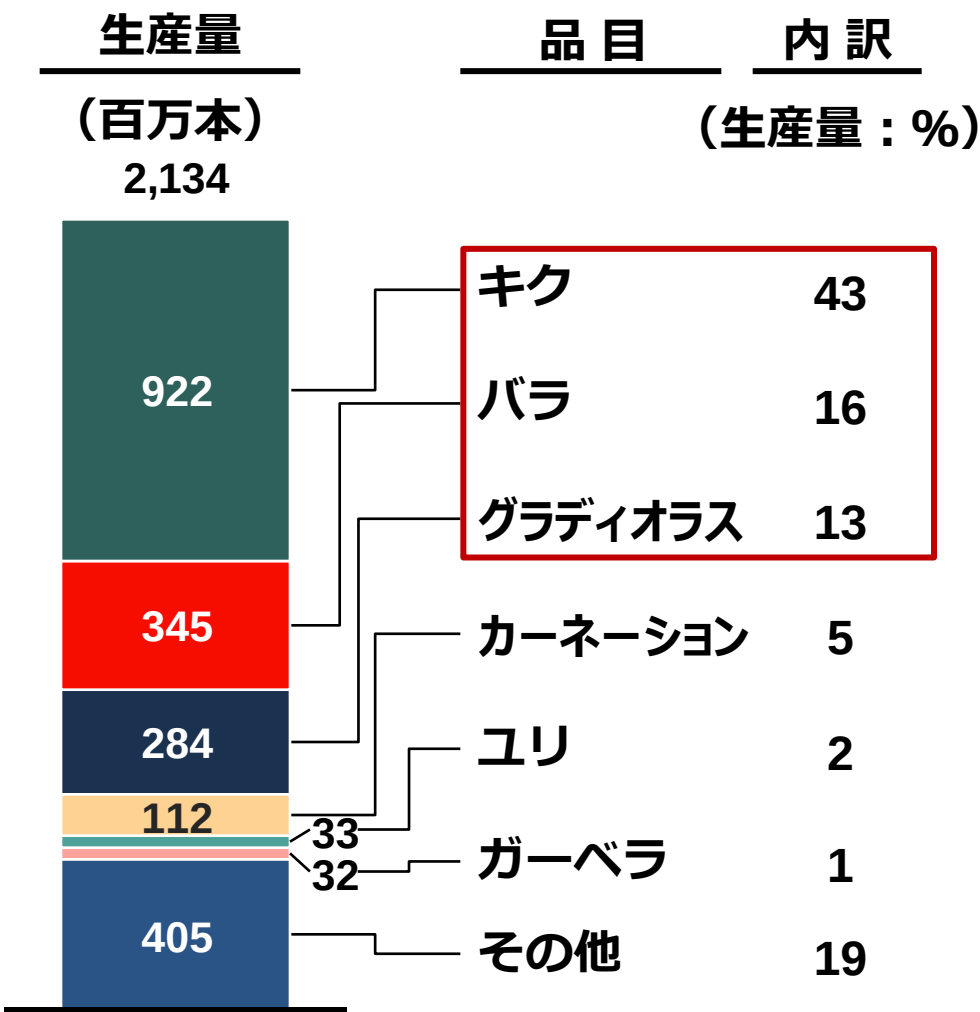
- 国内シェア：約7%
- 非常に高い生産性

参考：野菜・花卉の主要品目

野菜： トマト・キャベツがメイン



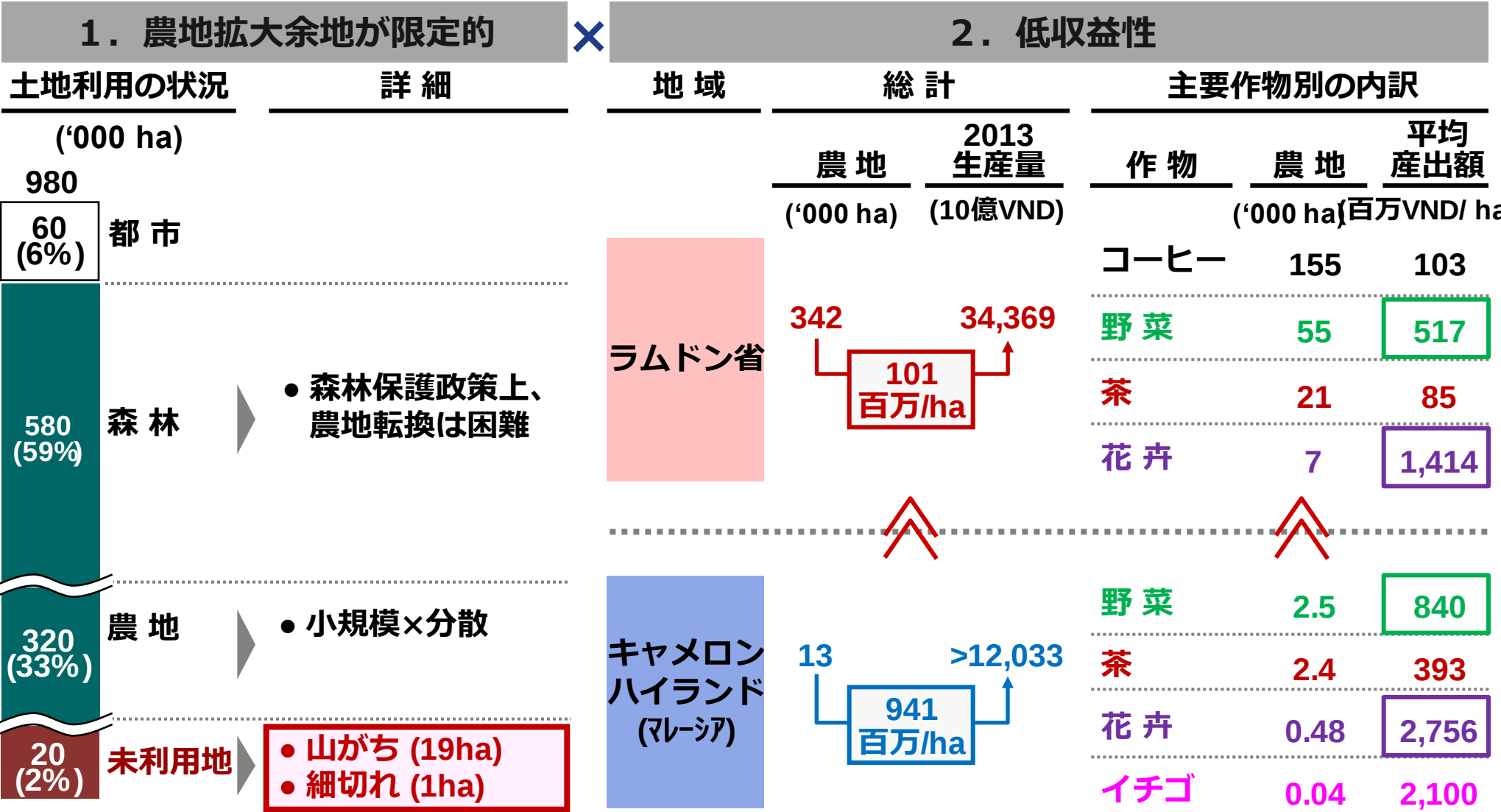
花卉： 主要3品目で約7割



ラムドン省の課題：まとめ

1. 「野菜」と「花卉」への更なるフォーカスが必要
 - 農地拡大余地が限定的
2. 差別化の土台 ⇒ 未整備
 - 野菜: “ポストハーベスト” が弱い
 - 花卉: “市場流通メカニズム” が欠落
3. 対日輸出のチャンス ⇒ 未開拓
 - 3つのボトルネック: 高生産コスト・不安定供給・低品質
4. 観光客480万人 ⇒ 未活用
 - 認知度不足 × アクセシビリティ不足 × 魅力度不足
5. 人材・R&D機能 ⇒ 未開発段階
 - 長期視点で要強化

ラムドン省が抱える根幹課題



出所：DIインタビュー・分析、ラムドン省統計データ

プロダクト戦略：「野菜」・「花卉」への注力が当面のカギ

作物		“固有の強み”	×	“市場拡大の伸びしろ”	=	優先度
野菜 花卉	野菜	大		大	}	高 ● 将来に向けた 確固たる成長 基盤を構築
	花卉	● 国内には競合不在 ● 稀有な栽培環境		● 中国：深刻な安全懸念 ● マレーシア：農地拡大に限界		
酪農		中		小	}	中 ● これまでの 事業基盤を キープ
		● 好気候×高生産性		● バリューチェーンが分断 (牧草地・乳業メーカー不在)		
コーヒー	ロブスタ	小		小		
	アラビカ	中		小		
茶	ベトナム茶	小		小		
	ウーロン茶	大		小		



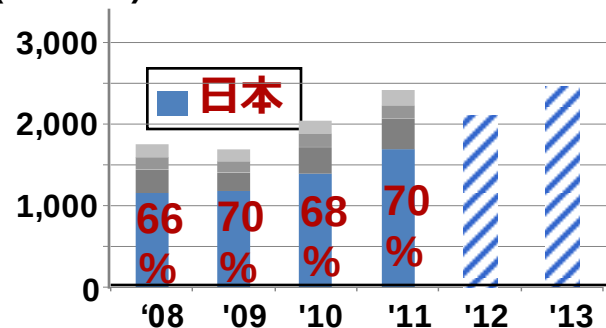
日本市場にチャンス

アジア市場の分析

日本＝アジア最大の輸入国

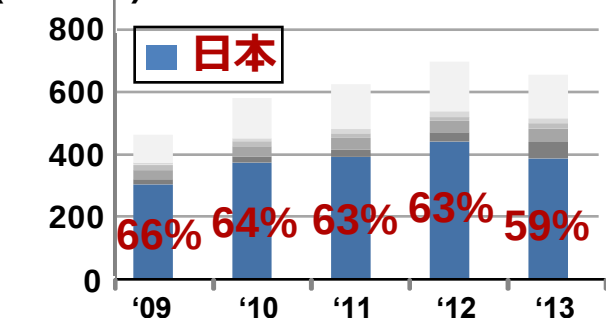
(アジアの加工野菜輸入額)

(百万ドル)



(アジアの切り花輸入額)

(百万ドル)

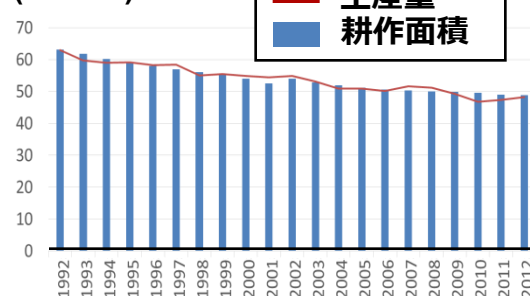


ダントツ

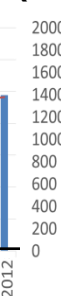
国内生産：縮小

(日本の野菜耕作面積及び生産量)

('000ha)

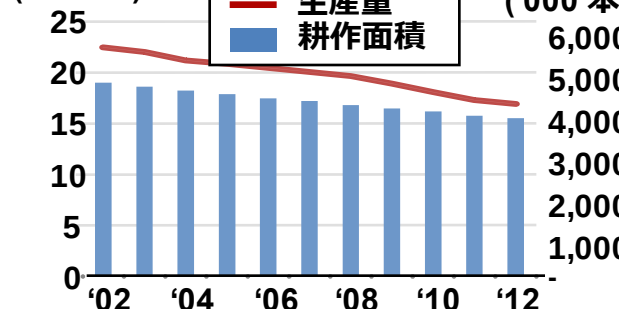


(トン)

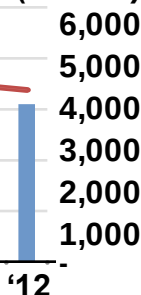


(日本の花卉耕作面積及び生産量)

('000 ha)



('000 本)



輸入依存度は今後も増加

競合国：不安要因

中国：安全懸念

- 最大の対日輸出国 (53%)
- 「毒餃子事件」 ('07~'08)
- 日本消費者の90%が中国産品を「信用していない」

競合国：生産拡大にネック

マレーシア (35%)
コロンビア (15%)
中国 (13%)
タイ (10%)
ベトナム (8%)
その他 (19%)

土地拡大余地が限定的

日本との距離が遠い

ベトナムに追い風

ラムドン省にとっては千載一遇のチャンス

野菜：チャンスを活かす土台が未整備

ラムドン省の現状・課題

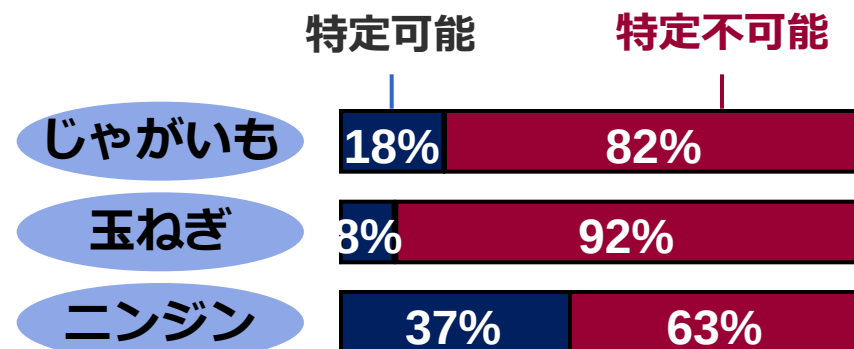
国内：差別化が未徹底

差別化の素地は十分・・・

- “ダラット野菜” = “高品質”
- 97%の消費者 ⇒ “産地” を重視



- ・・・ 消費者に伝わっていない
- “ポストハーベスト” が脆弱
(選別・等級区分&パッケージング)
- 明確な違いが分からない



輸出：3つのボトルネック

日本市場攻略の好機・・・

“中国からの野菜輸入を代替するため、
ラムドン省で大規模に野菜を生産する
企業と取引したい” (日系野菜企業)



・・・ “3つのボトルネック”

1. 生産コスト：高

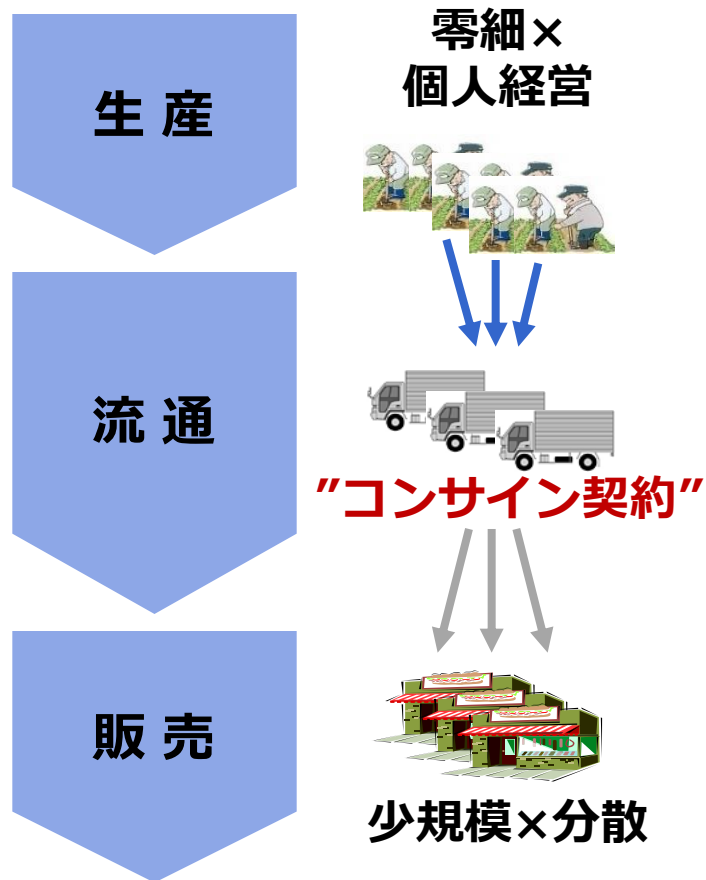
- 農薬・肥料の過剰投与
- 例) ニンジン (VND/kg)
 - ラムドン省： 7,100
 - オーストラリア： 4,900
 - 中国： 4,200

2. 供給力：不安定×小規模

3. 品質：基準未達

花卉：“市場メカニズム”が欠落

ラムドン省の現状・課題



価格が不透明

- 農家⇒卸への販売価格は、卸⇒小売への販売成立後に決定
- 農家はそもそも“適切な販売価格”を知る術がない



激しい市場変動

- 需給バランス乱高下
- “供給過剰⇒廃棄”が頻発



常に農家が搾取される構造
⇒ 品質向上の余力なし

ラムドン省の戦略方向性：大きく7つ

‘16～20年の5カ年農業発展マスタープランの骨子

メイン戦略
(短期)

東南アジアNo.1の日本向け輸出基地

1. 「農業団地」の建設

サポート戦略
(中長期)

ベトナム中部高原No.1の
農業人材育成センター

6. 有能農業人材の育成

7. 中長期的なR&D機能の強化

ベトナムにおける圧倒的なNo.1ブランド

2. 野菜：
「ポストハーベス
ティングセンター」
の建設

3. 花き：
近代的卸売
市場の創設

4. ブランディング活動の強化

ベトナムNo.1の
アグロツーリズムサイト

5. アグロツーリズムの振興

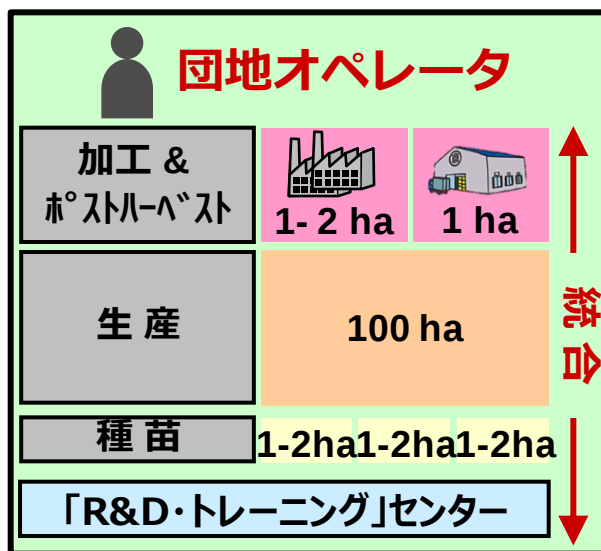
ゴール

東南アジアNo.1の高付加価値ハイクラス農業都市

「農業団地」：ラムドン省全体の農業レベルを底上げ

全体コンセプト

① 農業団地（＝ハブ）



- 拡大需要
- 投入資材
- テクノロジー
- テクニク

- 野菜原料供給 (未加工)

② 周辺農家（＝サテライト）

組合 A	40-50 ha
組合 B	40-50 ha
組合 C	40-50 ha
組合 D	40-50 ha
組合 E	40-50 ha

イメージ

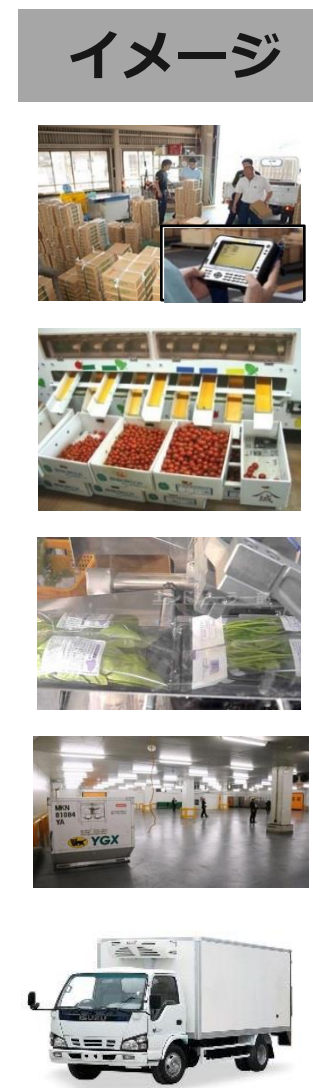
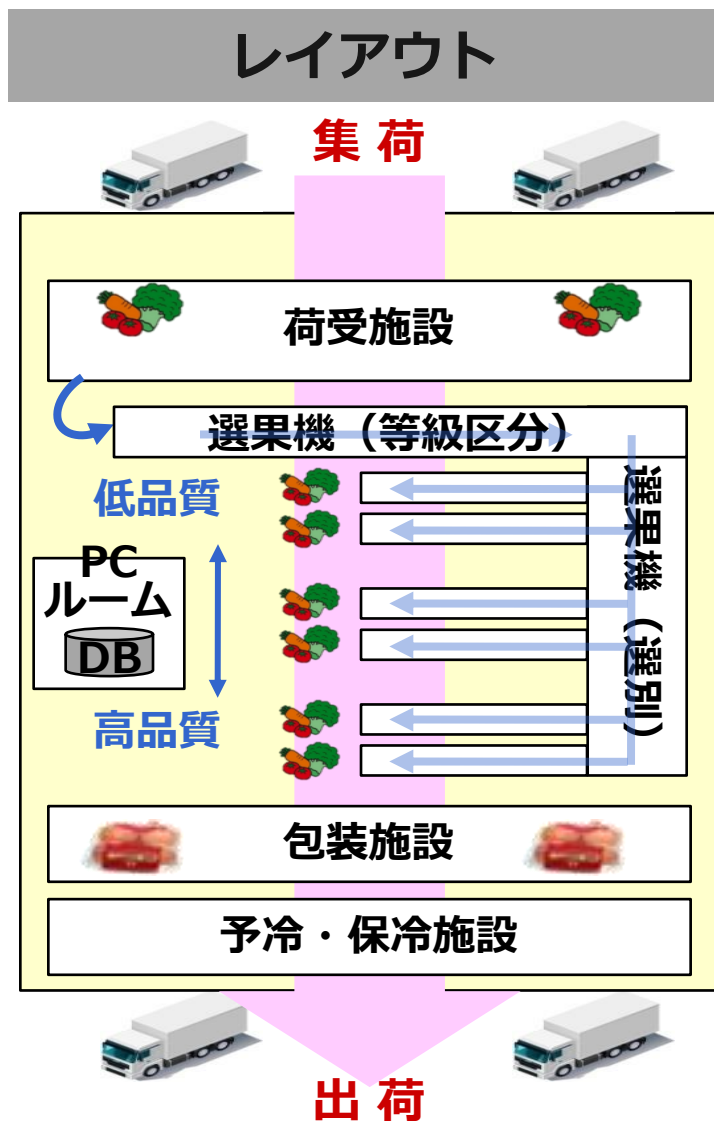
位置付け

- バリューチェーンを一気通貫&集約
- 対日輸出需要を安定確保
- 省内農家への先進モデルケース

- 農業団地の拡大需要を補完
- 高付加価値野菜生産を習得
- 農業団地のスケールメリット享受

現在、コンセプト・推進フォーメーションの具体化を実施中

「ポストハーベスティングセンター」：初期コンセプト



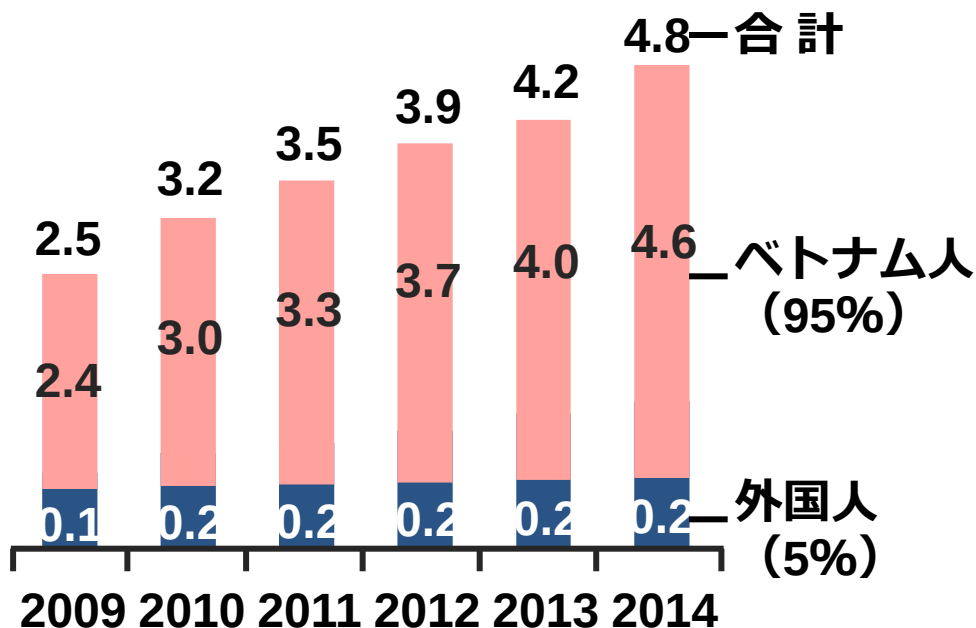
日本式システムの導入による品質・労働生産性向上を目指す

「アグロツーリズム」の振興

ラムドン省が目指す方向性

’14年の観光客数：480万人

(ラムドン省の観光客数推移：百万人)



目指すべきステップ

① 「モデルケース」の構築

- 高付加価値農業のショーケース化
- 多様な商品・サービスラインナップ
- 「プロ」のオペレータ

② 周辺農家への波及

- 適正な指導・学習機会提供
- ガイドライン・品質基準策定

③ サポート体制の構築

- ホーチミン・ハノイでの積極PR
- 省全体のブランディング活動とのリンケージ

観光客をラムドン省農業の“エヴァンジェリスト”に

目指すは「東南アジアNo.1の高付加価値農業都市」

- 4つの目標 + 7つの戦略
- 農業団地、ポストハーベスティングセンター、アグロツーリズム・・・

ラムドン省は本気

- '16-20年の次期5カ年計画に上記を盛り込み
- 「日越農業協力対話」 もこれをバックアップ

日系企業の支援がマスト

- 技術・ノウハウ、機器・サービス、ファイナンス